

平成21年度

長岡京市立中学校国際理解教育推進事業

米国マサチューセッツ州
アーリントン姉妹都市訪問
報告書

長岡京市立中学校国際理解教育推進協議会

はじめに

(長岡京市教育委員会学校教育課指導主事)

川村 晋

『興奮』、『感動』、そして、『感謝』。

これらが、アーリントン訪問を終えた生徒たち16人の共通の感想です。

アーリントンに向けて出発する数日前に開催していただいた生徒たちへの激励会で、小田市長様より、

- ① 長岡京市の市民の代表という自覚を持って行動してほしい。
- ② 学校や事前の学習会で学んでいる英語を実際の生活の中で活用し、新しい友だちやアーリントンの方々と交流を深めてほしい。
- ③ 係わってくださる人たちへの感謝の気持ちを忘れないでほしい。

という願いを聞かせていただきました。

生徒たちは、その思いを受けて、4月25日、アーリントンに向け出発したのですが、最初はやはり、順風満帆とはいかず、言葉の壁にぶつかり気まずい思いをしたり、緊張のあまり必要なものをなくしてしまったりと苦戦の連続でした。

しかし、ホストファミリーをはじめ、お世話して下さった方々の深い愛情に後押しされながら、生徒たちは、長岡京市の市民の代表という自覚を持ち、意欲的な実践態度で友好使節団としての役割を果たしてくれました。

5月3日、訪問最終日前夜に催された「お別れ会」では、新しいアーリントンの友だちやホストファミリーの方々に、英語やジェスチャーで心から感謝の気持ちを伝えている生徒たちの姿が印象的でした。今回の目的が十分達成されたと実感させられた瞬間でした。

後掲している生徒の感想を見ていただければお分かりになると思いますが、一人一人がこの体験をとおして、大きく成長し、新たな目標を目指そうとする意欲を持つことができました。今後のさらなる成長を期待します。

最後になりましたが、本事業の実施に御支援いただきました関係者の皆様に、心より厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

目 次

はじめに

I 訪問の部

1	団員名簿	1
2	日程	2
3	日程詳細	3
4	生徒感想文	10

II 来訪の部

1	団長挨拶	20
2	来訪者名簿	21
3	日程	22
4	日程詳細	23
5	生徒別れの挨拶	28

I 訪問の部

1 団員名簿

役員・引率者

役 職	氏 名	備 考
団長	川村 晋	
副団長	深見 美昭	長岡第三中学校 教諭
副団長	丹光 真衣	長岡中学校 教諭
コーディネーター	遠山 園栄	

生徒

学 年	氏 名	備 考
2年	八木 真由	長岡中学校
2年	大垣内 詩織	長岡中学校
2年	田中 仁望	長岡第二中学校
2年	四手井 日菜	長岡第三中学校
2年	老松 拓哉	長岡第三中学校
2年	小川 主税	長岡第四中学校
3年	仁島 麻理絵	長岡中学校
3年	宗像 大朗	長岡中学校 生徒リーダー
3年	辻 有紗	長岡第二中学校
3年	小川 拓馬	長岡第二中学校
3年	藤本 真由子	長岡第二中学校
3年	久野 夏波	長岡第三中学校
3年	屋田 瑠璃	長岡第三中学校
3年	木津 薫	長岡第四中学校
3年	出口 哲平	長岡第四中学校
3年	竹内 実奈	長岡第四中学校

3 訪問日程詳細

4月17日（金）

17:30 出発に先立ち、長岡京市長・教育長を表敬訪問し、各自アーリントンへの友好訪問団員としての豊富を述べ、激励を受けました。

4月25日（土）

08:45 芦田富男教育長、校長先生やたくさん保護者の見送りを受け元気に出発。今年、25周年記念式典に参加する市長をはじめ行政団のみなさんとも一緒に出発です。



12:15 関西国際空港より成田、デトロイト経由ボストン・ローガン空港へ。成田経由のため、デトロイトまでトータル16時間の旅。デトロイト発NW370便に乗り換え、ボストンまで約2時間の旅。



17:09 ボストン・ローガン空港着、アーリントンのスクールバスのお迎えで、ホストファミリーの待つシニアセンターへ向かいました。

19:00 シニアセンターにて、ホストファミリーと初対面。歓迎レセプションの後、それぞれホストファミリーの家に向かいました。



4月26日(日)

11:30 UUチャーチにて市民との交流会。長岡京音頭を一緒に踊りました。



13:00 25周年記念植樹を行いました。



4月27日(月)

8:00 オトソン中学校にて、シャドー（一緒に案内してくれる）の生徒と一緒に授業に参加。授業はさっぱりわからなかったけれど、なんとなくアメリカの中学生になれたような気がしました。



オトソン中学での文化交流。団員1人対約10人のアメリカ人のお相手をしました。言葉なんかわからなくてもなんとかなるものです！



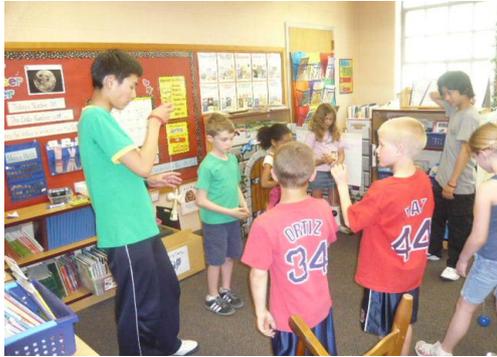
20:00 タウンミーティングを見学。今年の第1回目では、長岡京市との姉妹都市25周年を記念して「決議案」が採択されました。団員たちもミーティングに参加し、鳴子踊りを披露しました。

4月28日(火)

8:00 アーリントン高校を訪問しました。音楽製作の授業体験や高校生たちと野球をして楽しみました。



12:30 ストラットン小学校を訪問しました。ウェルカムセレモニーの後、授業見学、2年生の児童と文化交流をしました。みんなとても喜んでくれました。



18:00 明日帰国される行政団のみなさんと一緒に交流お食事会に参加しました。

4月29日(水)

9:00 ハーバード大学、州議事堂見学に行きました。



12:30 サイエンスミュージアム見学に行きました。



4月30日(木)

9:00 地下鉄でボストンへ行き、フェンウェイパーク（レッドソックス）見学、ボストン市内を歩くフリーダムトレイル見学、午後はたっぷりクインシーマーケットでお買い物を楽しみました。



5月1日(金)

8:00 ボストンハーバーから高速船に乗ってホエールワッチに行きました。あいにくの悪天候で、船は大揺れ、ほとんどの団員は船酔いしてしまいましたが、保護地区に入ると大きな鯨の親子が現れ、みんな力を振り絞り、甲板に出て鯨を探していました。



13:00 水陸両用車両を使ったダックツアーに参加しました。道路からチャールズリバーに飛び込む瞬間が最高でした。



5月2日(土)

ホストファミリーディ。ホストファミリーたちの企画で何軒かのファミリーが集まり、ボーリングやビリヤード、卓球ができるジュリアンズというところへ行きました。



5月3日(日)

ホストファミリーディ。何軒かのホストファミリー達と一緒にレッドソックスの二軍チーム（ポーツケット）の試合観戦に行きました。



16:30 さよならパーティ（ロビンス邸）

ホストファミリーや7月に来日する生徒たちとお別れ会をしました。ビートルズの歌や「故郷」、**This land is your land** を歌いました。参加者全員で「長岡京音頭」も踊りました。涙、涙のお別れでした。



5月4日(日)

8:00 たくさんのホストファミリーに見送られ、アーリントンを出発。
ボストン・ローガン空港へ向かいました。



11:40 NW1403便にてミネアポリス空港へ、成田経由で一関西国際空港へ。

5月5日(月)

成田での検疫や機体検査のため3時間以上遅れ、夜中の11時過ぎに関西国際空港へ到着。バスにて長岡京市に到着したのは午前2時でした。夜中にもかかわらず、芦田教育長はじめ、各中学校校長先生や保護の方々に出迎えていただきました。ほんとうにお疲れ様でした。



長岡中学校 二年 八木 真由

アーリントン市への訪問は、国や文化、言葉の違いを超えて、友好を深める事ができた最高に充実した日々でした。私は、英語で交流できるのか不安で緊張していると、「Are you hungry?」と笑顔で聞いてくれました。初めて会う私たちに、やさしくフレンドリーに接してくれたので、自分から話しかける勇気がわきました。そして、お互いのコミュニケーションが取れた時は、とてもうれしかったです。

小中学校で、私は「けん玉」を教えました。生徒たちは、上手にできると、「I got it!!」と声を上げて喜んでいて、私には、「Thank you!!」と何度も言ってくれ、仲良くなりました。また、楽しいゲームを教えてもらい、日本に帰ってからも友達とやってみようと思いました。毎日が楽しく貴重な経験ばかりで、国際交流のすばらしさを実感しました。

このような体験をさせてくださった方々や、支えていただいた多くの方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

長岡中学校 二年 大垣内 詩織

今回の訪問の中で一番思い出に残っているのは、オトソン中学校で授業を受けたり文化交流をしたことです。ホームステイ先の Louise と一緒に行動しました。

家庭科・数学・理科・英語の授業があり、全部英語で行われるので、さっぱりわからなかったけど、家庭科と数学は少し理解できたのでうれしかったです。アメリカの学校は、日本との違いがたくさんあるので驚きました。休み時間は短いし、朝も早いし、ランチのメニューは豊富で量も多くて時間は30分しかなく、食べ切れませんでした。食べ残しを当たり前で捨てているのを見たときは、びっくりしました。

文化交流では、習字を教えました。見本を興味津々に見ていたのでも、私も気軽に教えることができました。筆を使って書くのは初めてだったので、少しとまどっていたけど、墨をたっぷりつけて、嬉しそうに書いているのを見た時は、目的を果たせた喜びでいっぱいになりました。

このアーリントン訪問の中で、私が学んだことは数え切れないほどです。まだ13年しか生きていないのに、アメリカへ10日間も行って、たくさんの事を学びました。この訪問は、一生忘れることはありません。先生方、そしてお世話になった皆さん、本当にありがとうございました。いつかまた、もう一回アーリントンに行きたいです。

長岡中学校 三年 仁島 麻理絵

今回のアーリントン訪問の中で最も印象に残っているのは、オトソン中学校での授業体験

です。一緒にシャドーしてくれた人とは初対面で、なかなか話しかけられなかったけれど、だんだん向こうからも話し掛けてくれるようになってきて、少し会話ができるようになりました。数学の授業の時には、私の隣に座っていた別の生徒が、問題の解き方を図に描いたりしながら丁寧に教えてくれました。みんな私にやさしく接してくれたり、話し掛けてくれたりしたので、とても嬉しかったです。

でも、授業を受けていて驚いたことがひとつありました。それは、授業開始と終了のチャイムが無いことです。日本の学校では、授業開始と終了のチャイムがあるので、授業がいつ始まり、いつ終わるかがわかります。しかし、オトソン中学校にはチャイムが無いので、初めて授業を受けた私は、少し戸惑いました。授業体験終了後、私たちは学校の校舎見学をしました。授業の様子を写真に撮ろうとすると、何人かの生徒がポーズをとってくれました。その後、生徒たちと文化交流をしました。私は、習字を教えたのですが、みんな字が上手でとても驚きました。字を書いている時は、とても楽しそうで、漢字の意味を尋ねてくる生徒もたくさんいました。オトソン中学校で授業体験をしたのは一日だけでしたが、その短い時間の中でもアメリカの子ども達の優しさに触れ、アメリカと日本の学校の違いを発見することができました。アメリカの子ども達から学んだことはたくさんあるので、それをこれからの生活に生かしていきたいです。

長岡中学校 三年 宗像 大朗（生徒リーダー）

僕は今回アーリントンのバンドさんのお宅でホームステイをさせていただきました。出発前は不安な気持ちが無かったわけではありません。しかし、バンドさんから電子メールをもらい、何度かメールのやり取りをして、温かく迎えていただけるという安心感と、早く会いたいという気持ちが強くなり、出発の時にはわくわくしていました。

僕は「日本とアメリカの文化の違いを肌で感じてみたい」と、この訪問に応募しました。実際にアーリントンにいる間、街の風景、家の大きさ、食べ物の種類、料理、生活スタイルなど、「日本と違うこと」をたくさん感じることができました。アーリントンに行って一番楽しかったことは、家や近所の人たちと一緒に遊んだり、買い物にいったりしたことです。スケートボードを家の前でやったり、ボストンに行ったりと、ここでも色々な「アメリカ」を感じることができました。コミュニケーションについては、あまり困ったことはありませんでした。みんなが気軽に挨拶を交わし、話し掛けてくれました。未熟な英語で話し掛けても、しっかり理解しようとしてくれたので、とても嬉しかったです。ただ、感覚の違いに戸惑いもありました。例えば、ホストファミリーと過ごす自由な時間に何をするかを決める時、「卓球するか、買い物するかどっちにする？」という聞き方をされた時です。なぜなら、日本では遠慮がちに「何をしたい？」と聞き「何がある？」「何でもいいよ。」と曖昧に答え、お互いに気遣い、探り合うようなことが多いからです。実際に僕たちもアーリントンで「どっちでもいいよ」という言葉をよく使っていました。

アーリントンの人との会話で、少しずつわかってきたのは、自分の考えをはっきり伝える

ことは、「アメリカ流の相手への思いやり」なのではないかということです。つまり、はっきり言ったほうが、相手が楽になるという考え方です。日本では、自分の考えを先に言いすぎると、自分勝手だと取られがちですが、このようなところに国民性の違いがあるのかな、と思いました。そして、やり方が違うだけで、日本でもアメリカでも「相手を思いやる気持ち」は変わらないんだということも感じました。

また、学校見学で感じたことは、学校は自分で勉強をしに行くところ、というムードがあったこと。生徒の自主性が大切にされていること。そして、みんなが自分の考えをしっかりと発言すること、です。自由な雰囲気の中で、一人一人が自分の意見をはっきり言いながら、先生と協力して楽しい学校にしているように思いました。自分の学校もこうした雰囲気に少しでも近づくように、僕自身ががんばっていかうと思います。

僕は、今回このアーリントン訪問団の一員として、とても貴重な体験をさせていただいたことを本当に幸せに思います。そして、今まで僕を支えてくれた家族や先生、アーリントンの人たちに心から感謝したいです。本当にありがとうございました。

長岡第二中学校 二年 田中仁望

私がアーリントンに行って一番楽しかったことは、オトソン中学校に行ったことです。ここでは、たくさんの事を学ぶことができました。中学校では、そこの中学の生徒達とペアで行動することになり、私は運良くホストファミリーの人となることができました。中学校はびっくりするほど広くて、扉を開けて階段を登り扉を開けて階段を下り・・・と、教室の移動は Olivia の後を付いていくだけで精一杯。でも、周りをみるとみんな笑顔で、「Hi！」と声を掛けてみると、笑顔で「Hi！」と返してくれます。教室に入って、Olivia が先生に私を紹介してくれると、たちまちそこの生徒になったかのように授業が始まります。1時間目の社会の授業では、隣の席の男の子に、ボールペンを貸してあげたり、他の席の男の子に、「Do you like foods?」みたいなことを聞かれたりして、パニックになったりもしました。最後にはみんな「Bye！」と言ってくれて、みんなの笑顔がすごく温かくてとても嬉しかったです。私は、急にやってきた日本人を嫌うのではないかと思っていましたが、全然違って、みんなとても優しくしてくれました。毎日が夢のようで、とても楽しかったです。支えてくれた人たちに感謝したいです。ありがとうございました。

長岡第二中学校 三年 藤本 真由子

今回私は、アメリカへ行ってホームステイを体験したことで、英語力やさまざまな力を身につけて帰国できたと思います。その中でも、私が一番印象に残っているのは、アメリカ人との交流はもちろんですが、一緒に行った中学生の仲間たちと10日間、言葉などの違う国で共に過ごした事です。初めは、意見の食い違いや、学年などの違いから喧嘩や陰口等があ

り、とても辛い思いをした人もいました。でも、それを自分たちで変えようとするのができ、最後にはみんなで泣いて、みんなに感謝することができました。この16人だったから、こんな良い思い出ができ、色々な問題があった中で自分たちで解決する力を得ることができました。ホストファミリーや地域の方々は常に笑顔で、言葉が通じなくても一生懸命に聞いてくれました。お別れするとき、ホストマザーが「また、ここへ戻ってきなさい。」と、言ってくれました。私は、最初からずっと温かくて優しかったホストファミリーや、地域の方々の笑顔を一生忘れません。この10日間は、私の中の最高の思い出であり、私の将来に繋がる貴重な時間になりました。

長岡第二中学校 三年 辻 有紗

二年越しの強い思いで手に入れたアーリントン訪問への切符を手にした私は、アーリントン訪問が近づくにつれ、興奮で舞い上がっていました。不安はまったく無く、希望に満ちていました。アーリントンに無事到着し、ホストファミリーと対面しました。私のホストファミリーは、何でも気を使ってくれて本当に親切な方でした。でも、初めの1日、2日は私は一人で滞在したので、日本語が通じない生活は本当に想像していた以上に不安なものでした。でも、そんな不安はすぐに消えて無くなりました。それは、不十分な英語ながらも喋ろうとした私に気づいてくれ、いつも笑顔で聞いてくれるホストファミリーのおかげでした。私は、ずっとこのままアーリントンのホストファミリーと共に生活したくてたまりませんでした。本当に、日本に帰りたくなかったです。私の気持ちを、これほどまでに高めてくれたホストファミリーには、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、アーリントンに行くまでにたくさんの面で支えてくださった方々にも、本当に感謝しています。

私は、まだこの訪問が終わったとは思っていません。私は、また必ず今よりもっと成長してアーリントンにカムバックします。カムバックした時、今回お世話になったアーリントンの人たちに、成長した自分を見てもらいたいです。私はこの訪問で、夢への第一歩が踏み出せたように感じました。私をアーリントンへ行かせてくださったみなさん、**Thank you So much!!!**

長岡第二中学校 三年 小川 拓馬

僕は、アーリントンで一番印象に残ったことは、何よりもアーリントンの人たちとコミュニケーションが取れたことです。最初は、話しかけられてすごく戸惑いましたが、何回も会話するうちに不安が楽しさへと変わりました。そして、普通に会話をするだけではなく、ジョークを言ってみたり、色々とお話を発展させて、より楽しくなるように心がけました。ホストファミリーはとても優しく迎えてくれました。僕が少し悩んでいると、すぐにホストマザーが来てくれて、一緒にいてくれました。帰国してから、メールで、「またアーリントン

に来たら、私たちの家はあなたの家です。」と、言ってくれました。僕は、その言葉を聞いて、涙が出そうになりました。

お別れパーティでは、ほとんどの団員が泣いていました。僕も涙が出そうになったけど、泣いても楽しくないので思いっきり楽しみました。僕は、この旅行が人生の中で一番いい思い出になりました。将来この旅行で経験したこと、学んだことを生かして生きていきたいと思います。これだけ楽しめたのは、僕を支えてくれた人、応援してくれた人がいたからだと思っています。ありがとう！！

長岡第三中学校 二年 四手井 日菜

「夢のように幸せな時間だった。」 私はアーリントンで過ごした時間をこう思います。この訪問団で私は、本当に楽しくて貴重すぎるくらいの経験をすることができました。

空港から出たとき、私は目の前に広がるアメリカの街並みに現実味がありませんでした。いざ、ホストファミリーの家で生活を始めてみると、聞いていた以上の日本との違いに驚かされました。それに、言葉を理解できなかった私に「Never mind」と、冷たく言われてしまう時もあり、「どうすれば・・・」と最初はすごく悩みました。そんな私とは違って、他のメンバーはいろんな人達とたくさんコミュニケーションを取っていて、自分の英語力不足に歯がゆさを感じることもありました。でも、途中から難しい言葉を無理に搜して伝えようとしている自分に気づき、ひたすら簡単な単語だけを並べて、自分のわかる範囲での言葉を作るようにすると良いことを学びました。それからは、毎日が断然楽しく感じられるようになって、何気ない会話がたくさんできるようになりました。そうやって、慣れていくにつれて、やっぱり時間の流れる速さに気づいて、いろんなあせりなども感じるようになりました。そして、最後の日。 いろんな気持ちが入り混じる中、この日を迎えました。アーリントンでは、たくさんの人達に出会って、たくさんの友達もでき、多くの人々の心の広さに触れられて、感じ取れたものや学べたものは、すごく自分にとって大きかったと思います。この年齢でこんな経験ができたことはすごく貴重で恵まれていると思うので、この経験をこれからの自分に生かさせていけたらと思います。

長岡第三中学校 二年 老松 拓哉

ここには、アーリントンへ行って楽しかったことなどを具体的に書くそうですが、僕はほとんどの事が楽しかったので、何を取り上げて話せばいいかわかりません。でも、これだけは、断言できます。「(天気が悪い日の) ホエールワッチングはしんどいです！！」

さて、話は変わりますが、楽しかったこと、というよりも一番記憶に残っているのはホストファミリー・ディです。僕はその日、ディアプロというガラス工房に連れて行ってもらいました。中は当然ながら暑いですが、初めての体験で面白かったです。ガラスで置物などを作るとき、横から見ていれば簡単そうに見えますが、鉄の棒がけっこう重い上にそれをガラ

スが垂れないように回し続けなくてはならないので大変です。でも楽しかったです。そのほかにも、ここには書ききれないほどたくさんの楽しいことがありました。今回の旅は、別の国の習慣を知る良いきっかけになりました。

長岡第三中学校 三年 久野 夏波

私がアーリントンへ立つ前、たくさんの人が色々な事を教えてくれました。アメリカは、大雑把でテキトーだよ、野菜が全然食べられないよ、まともに洗濯できないし、風呂にも入れないよ、などなど。単なる先入観なのか、実際にそうなのかは分からなかったけど、ろくな話がありませんでした。結局、「アメリカ＝雑」のイメージを抱いたまま出発した私でしたが、実際はどうだったのかと言いますと、雑だった！！！！ 典型的日本人（というよりいちいち細かい）私には、驚きに驚きの連続でした。私のホストファミリーは本当に親切で、何かと色々計画して連れて行ったりしてくれたのですが、まず初日の夜中10時に！拳大のアイスクリームを食べに行きました。食事制限にうるさい私にとって、それはあまりにも抵抗がありました！ でも、案外ペロリといけました。同じく食事の話で言えば、本当に野菜は全く食べなかった！！サンドイッチにちょろっと挟んだ程度で、あとは朝晩高カロリーのオンパレードでした。（脂肪万歳！）

風呂はシャワーですが、毎日入れました。使いさしのボディソープが軽く10本以上！いちいち水の出るポンコツシャワー！洗濯は一回きりでした。それからハンガーで干すという文化が無い！洗濯物は服が大変でした。他にも色々驚きや大変なことが山ほどありました。でも、ほんとうに楽しかった。毎日毎日、その一刻一刻にあふれるほどの思い出が詰まっていて、話始めると切りがありません。私がこんな最高の経験をすることができたのも、親が、様々な大人方が、団員の仲間が、ホストファミリーが、そしてアーリントンに住むたくさんの友達がいたからで、彼らに対する感謝の念は測り知れません。アーリントンへ行って私はこんなことを思いました。私はずっと日本という国に誇りを持っていました。謙虚で相手を尊重する文化を持つ日本に、鼻の高い思いでした。

また、几帳面で丁寧というイメージも大好きでした。でも、でもアーリントンに行って、私はなんだか日本が面倒くさくなりました。私の学校では、人の愚痴が多く上下関係だのいじめだの、人間関係が複雑すぎて疲れます。話せばいいことをいちいちメールで伝え、塾だの手紙だのゲームだの、他人との関わりが極端に少ない。アーリントンでは、ケータイは電話をする道具です。学校はすごく早く終わり、宿題が大量に出ます。その宿題はリビングでやるんです。自室に籠るのは、寝る時だけです。先ほど、アメリカは雑だと言ったけど、日本は逆に几帳面すぎると思います。「ダイエットがなんだ！人間一生短いのに、好きな物を好きなだけ食べないでどうするんだ。」そんな気持ちになりました。「不潔がなんだ。健康に生きられているんだからいいじゃないか。」そんな気持ちになりました。アーリントンの人達と話すのは、本当に楽しかった。個性はあるけれど、みんなフレンドリーで、昔どこかで会った気がしました。聞いていたとおり、明らかに不機嫌な店員もいました。でも、こっちが

一生懸命下手くそな英語で話し掛けると、すぐに笑ってくれました。

今回のホームステイで学んだ一番のことは、人の絆でした。私自身忘れていた人と人との繋がりでした。私の思い描いていた日本は、もはや昔の話で、アーリントンでそういう話ができなかったのは残念でした。ホストファミリーの人に、私は、「次会ったときに返しなさい。」と言われて、1セントの「ラッキーコイン」を渡されました。必ず、必ず、もっともっと英語の勉強をして、もっともっと喋れるようになって、もっともっと大きく成長して、この1セントを返しに行きます。その時に、「日本ってこんなに人と人の絆が深いんだよ。」って言えるよう、アーリントンの人々が教えてくれたその繋がりをみんなに伝えたい、そう思っています。今回のホームステイで取得した物は、数え切れないほど多くて、測り切れないほど大きくて、何より誰より温かくて大切なものでした。くさい言葉しか並べられないけれど、私にとって本当に大きな成長になったと思うし、たくさんの友達ともう一つの家族も得た、笑顔と涙の10日間でした。こんな最高の経験をさせてくれたすべての人に、ありがとう。素敵な町アーリントンに、感謝と尊敬の念をこめて、ありがとう。

長岡第三中学校 三年 屋田 瑠璃

私がアーリントンに行って楽しかったことや嬉しかったことは、高校生や中学生、小学生と友達になれ、交流した事です。高校では、学年委員の人達や案内してくれた人と仲良くなり、とても楽しく話せました。小学生とは、交流で折り紙を教えてあげた時、とても喜んでもらえました。教えるのは難しかったけど、伝わったときは本当に嬉しかったです。中学生とは、自分とペアで案内してくれた人と仲良くなり、いろいろ教えてもらいました。交流のときも隣に来てくれて、とてもありがたかったです。隣の男の子はとてもフレンドリーで積極的に話し掛けてくれました。こうやって、多くの人と仲良くなれたのが、私の中でとてもいい思い出になりました。

長岡第四中学校 二年 小川 主税

去年の10月から、僕がアーリントンへ行けると決まってから訪米する日まで、まだかまだかといつも思っていました。訪米する前日は、不安と期待が入り混じり、なかなか寝付くことができませんでした。いよいよアメリカでのホームステイ。ホストファミリーはみんな優しく接してくれました。特に驚いたのが、近所の人達同士が、仲が良く助けあっている点にとっても感動しました。特に僕はオトソン中学校でのことがとてもよい経験だったと思います。なぜなら、目標だった「友達を作る」ということを達成できたからです。先生もとても気さくで面白い先生でした。今回、僕がこの体験に応募していなかったら、「自分の意思をしっかり伝えること」があまりできないままだったと思います。本当はそれをしたと思っているのに、遠慮したり・・・アメリカ人は遠慮されるのが嫌いというのは

前から知っていましたが、日本人も時と場合によっては自分の意思をストレートに伝えるべきだ、と改めて感じました。今後もこの体験が生かされるといいな、と思いました。

長岡第四中学校 三年 木津 薫

私が、今回のホームステイで一番印象に残っているのは、文化の違いです。日本では、ありえない事から日常の些細な事まで、驚きの毎日でした。一番の違いは、やはり言葉です。半年間掛けて猛特訓してきた英語も、思っていたよりは通じず、悔しい思いが残りました。現地の人とは発音や使い方が違うんだ、と痛感しました。もうひとつの大きな違いは、土地の広さです。アメリカではその広大な土地を活かして、道路も家も学校も広々と作られています。自転車をほとんど見なかったのも、土地が広すぎて自転車だと逆に移動が不便になるからではないか、と思いました。また、広い土地を活用して、緑が溢れているから街中でもリスが住めたりできるんだな、と思いました。どちらも、日本では真似できないことです。ホームステイ先で驚いたことは、地下室があるということです。日本の家では考えられませんが、地下室が普通にあり、高いところにグラスを並べたりできるのは、地震が滅多にこないアメリカのこの地区の特権で、羨ましいことです。唯一つショックを受けた事があります。それは、平気で食べ物を捨てる事です。食べ残しはそのままゴミ箱行きです。日本でそんなことをすれば、「もったいない！」の声が飛んできます。

アメリカでは広い国土を利用して、食べ物にはあまり困っていないのかもしれませんが。けれど、それでも食べ物は粗末にははいけないと思います。

私は、今回の体験を通して、アメリカの良い面、改善すべき面を見る事で、日本の良さもより深く知ることができました。また、今までは知らなかった世界にまで視野を広げる事で、さらに自分を成長させる事にも繋がったと思います。

長岡第四中学校 三年 竹内 実奈

私がアーリントンへ行って一番楽しかったことは、小・中学校を訪問したことです。私にとって学校は身近なものなので、どんな違いがあるのか、行く前からすごく興味がありました。まず始めに行ったのは、オトソン中学校。シャドーイングで授業体験をしました。一緒についてくれる生徒は、その日初めて会う人で、私は少し緊張していました。けれども、話し掛けてくれたり、先生や友達を紹介してくれ、緊張をほぐしてくれました。そして、段々と会話も弾み、とても仲良くなれました。授業体験して思ったのが、生徒たちがみんなとても意欲的であるということです。日本人は、割合間違えることを嫌がる気がしますが、どの生徒も「これだ！」と思ったらとにかく積極的に手を挙げるのです。この光景は、私にとって衝撃的でした。学校生活では、一人一人時間割が違うことや、教科ごとに教室があり、様々な教科書を持って移動することや、授業の途中で昼食の時間があることなど、日本と違う点

がたくさんあり、アメリカの学校は面白いな、と思いました。次の日はストラットン小学校へ行き、歌と鳴子の披露、そして文化交流を行いました。文化交流では、私は習字担当でした。「意味教えて」「この字どう？」など、たくさん話しかけられ、分からず困ったこともあったけれど、私も負けじとジェスチャー混じりで話したりしました。書けた後、先生や友達に見せながら嬉しそうに話す姿を見て、日本の文化の良さを伝える今回の目的を果たすことができたかな、と思います。

私は、中学訪問の後から、なぜアメリカ人は積極性があり、はきはきしているのか気になっていました。それは、学校での学習に秘密があるのではないかと私は思います。小学校の授業で、ディスカッションが行われているクラスを発見しました。私は、それを見て小さいときから自分の意見を言い合う授業を受けているから積極的になり、思うことがハッキリと言えるのだと思い、学習の面でも文化の違いが現れるのだと感じました。

自分自身を成長させ、色々な発見ができたこの10日間は、私にとって本当に意味あるものとなりました。言葉の壁はあったけれど、言葉じゃなくても、ゲームやジェスチャーでもコミュニケーションは取れ、乗り越えることができるのだと身にしみて感じました。

私は今回、「出会いの大切さ」と「アメリカの良さ」について学びました。ホストファミリーや市民の方や生徒たちとの出会い。一緒に行ったメンバー。「出会う」という事は、人を大きくさせるのだと皆から教えてもらいました。そして、自分が思っていたアメリカは、想像にすぎなく、実際に行くからこそわかる事がたくさんあるということ。私は今回、学び体験したことをたくさんの人に伝え、アメリカと日本との交流発展へと繋いでいきたいです。

最後になりましたが、私を支え見守ってくれた皆さん、本当にありがとうございました。

長岡第四中学校 三年 出口 哲平

僕がアーリントンに行って一番嬉しかったことは、自分の言いたいことが相手に通じたことです。アーリントンに行く前は、自分の英語で通じるかどうか心配していました。でも、着いたとたん、みんなフレンドリーに話し掛けてくれたので、すぐに馴染むことができました。話すときも、僕の英語を一生懸命聞いて理解しようとしてくれました。言いたいことや自分の気持ちを伝えるのはとても難しかったけど、知っている単語を並べたりして話しました。時には、伝えるのにとても時間がかかったりもしました。でも、自分の言いたい事が伝わったときは、本当に嬉しかったです。

ホストファミリーもとても親切にしてくれました。最後にホストファミリーとのお別れの時は、いろいろな思い出が込み上げてきて、泣き出しそうになりました。アーリントンで過ごした10日間は、本当に、本当に楽しかったです。アーリントンでの思い出は、一生忘れません。たくさんの素晴らしい体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

Ⅱ 来訪の部

Speech by Cindy Stark

Hello, my name is Cindy Starks. I am a member of the school committee in Arlington, Massachusetts.

I am accompanied by Byron Bradley, an Arlington High School teacher, Jackie Daley, an Arlington 2nd. grade teacher and 15 students from the Arlington middle and high schools.

We are honored to be here visiting your town as part of the 25th. anniversary celebration of our wonderful sister city program.

We are eager to learn and experience life in Japan and in doing so bring all of us closer together and have a better understanding of other cultures.

Too often we do not take time to understand and see things from different point of view and I think programs like this help us to ensure our eyes and minds are open.

Thank you so much for your hospitality and gracious welcome. May this program and the opportunities it brings for the youth of our communities continue to thrive and enrich the lives of many generations.

ご 挨拶

シンディ・スターク（アーリントン教育委員）

私は、マサチューセッツ州アーリントンで教育委員を務めているシンディ・スタークです。今回、アーリントン高校教員のバイロン・ブラドリーと小学校二年生を担当しているジャッキー・デイリー、そして15名のアーリントン高校およびオトソン中学校を代表する生徒と共に長岡京市を訪問させていただきました。姉妹都市締結25周年という区切りの年に、長岡京市を訪問させていただきました、たいへん名誉なことと、感激しております。

私たちは今回の訪問で、日本での生活を体験し、そこからお互いの文化を理解し、両市の友情をさらに深めていきたいと考えています。

私たちは時として、物事を別の角度から見ることを忘れがちです。この交換プログラムは、私たちの目と心を開く大きな助けになると信じています。

皆様の温かい歓迎とおもてなしに心から感謝申し上げますと共に、このプログラムが将来幾世代にもわたって、両市の青少年の人生を豊かにする助けとなりますよう、心から願ってご挨拶とかえさせていただきます。

1 団員名簿

	氏名		学年
1	Ali, Shaira, Yasmin	シャイラ・アリ	7
2	Coggins, Jasmina	ジャスミーナ・コッキングズ	8
3	Everett, Holly	ホリー・エベレット	10
4	Fischer, Christian	クリスチャン・フィシャー	10
5	Fischer, Jeremy	ジェレミー・フィッシャー	10
6	Fowler, Abigail	アビゲイル・フォウラー	8
7	Harrelson, Robert	ロバート・ホープマン	8
8	Hopeman, Morgan	モーガン・ハレルソン	9
9	Jean, Manon	マノン・ジーン	10
10	Kambil, Rita	リタ・キャンベル	7
11	Kranz, Sarah	サラ・クランツ	10
12	Leone, Amanda	アマンダ・レオーネ	9
13	Meadows, Laura	ローラ・ミードウ	10
14	Tanner, Louise	ルイーズ・タナー	7
15	Tyson, Olivia	オリヴィア・タイソン	8

引率

1	Byron Bradley	バイロン・ブラドリー	教員
2	Jackie Daley	ジャッキー・デイリー	教員
3	Cindy Starks	シンディ・スターク	教育委員

2 日程表

7月7日(火)	夕刻	U855 便にて関空着
		長岡京市役所到着
7月8日(水)	午前	長岡京市役所表敬訪問
		光明寺観光
	午後	回転寿司
		長岡天満宮・柳谷寺観光
	夕刻	ウェルカム・パーティ(バンビオホール)
7月9日(木)	午前	長法寺小学校訪問
		学校給食
	午後	西乙訓高校訪問(弓道、茶道、着物体験)
7月10日(金)	午前	長岡第四中学校訪問
		授業体験(美術、調理実習、ソフトバレーボール大会)
	午後	乙訓高校訪問(水球体験)
7月11日(土)	全日	ホストファミリーディ
7月12日(日)	全日	ホストファミリーディ
7月13日(月)	全日	京都市内観光(金閣寺、漫画博物館、清水寺)
7月14日(火)	全日	京都市内観光(太秦映画村、嵐山モンキーパーク)
	夕刻	フェアウェルパーティ(サントリーゲストルーム)
7月15日(水)	午後	UA886 便にて帰国

3 日程表詳細

7月7日(火)

15:20 UA855 便にて関西国際空港へ無事到着

18:30 長岡京市役所へ到着後、各自ホストファミリーの家へ。



7月8日(水)

9:00 長岡京市市役所へ、市長への表敬訪問をしました。

その後、市役所内ミニツアー。議事場などを見学しました。



10:00 光明寺見学へ。英語がぺらぺらの尼さんに堂内を案内していただき、仏教の話をしっかり英語で説教していただきました。



12:00 回転寿司でランチ。



13:00 長岡天満宮見学。特別にお払いもしていただきました。



14:30 柳谷寺見学。あじさいがまだまだ美しい境内を歩きました。



19:00 ウェルカムパーティ。(バンビオホールにて) 市長はじめ長岡京市のアーリントン関係者による盛大な歓迎会でした。



7月9日(木)

9:00 長法寺小学校見学。低学年の授業見学や習字体験、体育館では6年生と英語活動の授業に参加しゲームを一緒に楽しみました。



12:00 学校給食初体験！メニューは八宝菜とスパイシー豆でした。



13:00 西乙訓高校で生徒たちと交流会。弓道体験、着物体験や茶道クラブによるお茶の接待を受けました。また、生徒会による交流会では、西乙生と折り紙などをして交流しました。



7月10日(金)

8:30 長岡第四中学校にて授業体験。体育館にて全校生徒による歓迎を受け、ブラズバンドの素晴らしい演奏を聴きました。

その後、美術の授業を体験。木彫りのイニシャルキーチェーンを製作。調理実習では、「肉じゃが」「味噌汁」「サラダ」を作って食べました。



15:00 乙訓高校で水球 (Water Polo) の体験をしました。



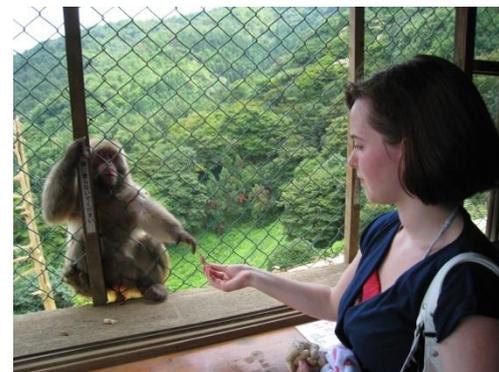
7月13日 (月)

9:00 京都市内観光。金閣寺、漫画ミュージアム、清水寺を見学しました。



7月14日 (火)

9:00 嵐山観光。太秦映画村、岩田山モンキーパークへ行きました。



18:00 フェアウェルパーティ (サントリーゲストルームにて)

お世話になったホストファミリーや友達と最後のお別れです。練習を積んだ
剣玉大会も盛り上がり、最後に恒例の「長岡京音頭」をみんなで踊りました。



7月15日(水)

12:00 たくさんのホストファミリーや関係者のみなさんに見送られ、関西国際空港へ。

17:10 UA886 便にて無事出発しました。

「お世話になったみなさん、本当にありがとうございました。」



Farewell Speech by Manon Jean

Watashi ha Manon Jean desu. With the closing of this trip, it is not a closing the bond between our two communities. Instead it is opening the gate wider, so that more students can experience this journey.

I hope this will let people see the world through other people's eyes. Thank you for your hospitality, your kindness, and your open hearts.

We enjoyed the Manga Museum, Samurai Movie Park, the schools, the shrines and beautiful Nagaokakyo. The Mayor has done an excellent job with the city. It is a wonderful place to visit and call home. I will never forget the time that I have had here.

お別れの言葉

マノン・ジーン

私は、マノン・ジーンです。この旅は終わりますが、私たちの二つの町の繋がりが終わることはありません。むしろ、このゲートをもっと広げ、もっとたくさんの生徒たちがこの旅を経験するようになるでしょう。この旅は、世界の人々がどんなことを考えているのかを目を開かせて教えてくれます。皆さんの心遣い、ご親切そして広い心に感謝します。

漫画ミュージアムや映画村、学校訪問、神社、そして美しい長岡京。市長のご尽力に感謝します。長岡京は、第二の故郷と呼べる素晴らしい場所です。私はこの町のことを一生忘れません。

Farewel Speech by Shaira Ali

Konnichiwa! Watashi ha Shaira desu. I am in the 8th . grade at Ottoson Middle School.

Coming here to Nagaokakyo, Japan has been one of the rewarding and enriching experience of my life.

From the breathtaking shrines and temples and welcoming schools , to the wonderful people that live here, Nagaokakyo is without doubt one of the most amazing places I have ever been to.

Along with the beautiful sights I saw, my visit was also very educational. I learned about Japanese customs like the tea ceremony, experienced part of a Japanese curriculum, and admired traditional Japanese art. I saw that our two cultures have many differences but also many similarities.

In conclusion, I thank the wonderful people if Nagaokakyo, without whom this trip would not have been possible, for their graciousness and hospitality. Arigato gozaimasu.

お別れの言葉 シャイラ・アリ

こんにちは。私は、シャイラです。 私はオトソン中学校の8年生です。日本の長岡京に来ることは、私の人生を豊かにし価値のあるものにしてくれました。息を呑むような神社や寺、歓迎してくださった学校やここに住むすばらしい人々。長岡京市は私が訪れたことのある場所の中でまぎれもなく最高にすばらしい場所です。

美しい風景を見ることはもちろんのこと、私の訪問はとても勉強になりました。茶道という文化体験、日本の学校での授業体験、感動的な日本の伝統芸術などを学びました。私たち二つの文化は、違いもたくさんありますが、似ているところもたくさんあることがわかりました。

最後に、長岡京市の素晴らしい人々に感謝いたします。みなさんの温かいもてなしのおかげで、私たちはこの旅を終えることができます。ありがとうございました。